

平成27年第2回嬉野市議会定例会会議録

招 集 年 月 日	平成27年6月5日					
招 集 場 所	嬉野市議会議場					
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	開議	平成27年6月15日 午前10時00分			議 長 田 口 好 秋	
	散会	平成27年6月15日 午後0時21分			議 長 田 口 好 秋	
応（不応）招 議員及び出席 並びに欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠	議席 番号	氏 名	出欠
	1番	生 田 健 児	出	10番	山 口 政 人	出
	2番	宮 崎 良 平	出	11番	芦 塚 典 子	出
	3番	川 内 聖 二	出	12番	大 島 恒 典	出
	4番	増 田 朝 子	出	13番	梶 原 睦 也	出
	5番	森 田 明 彦	出	14番	田 中 政 司	出
	6番	辻 浩 一	出	15番	織 田 菊 男	出
	7番	山 口 忠 孝	出	16番	西 村 信 夫	出
	8番	田 中 平 一 郎	出	17番	山 口 要	出
	9番	山 下 芳 郎	出	18番	田 口 好 秋	出

地方自治法 第121条の規定 により説明の ため議会に出席 した者の職氏名	市長	谷口 太一郎	健康づくり課長	染川 健志
	副市長	中島 庸二	子育て支援課長	池田 秋弘
	教育長	杉崎 士郎	市民協働推進課長	
	総務企画部長	池田 英信	文化・スポーツ振興課長	
	市民福祉部長	田中 昌弘	福祉課長	田中 秀則
	産業建設部長	山口 健一郎	農林課長	
	教育部長	堤 一男	うれしの温泉観光課長	宮崎 康郎
	会計管理者 会計課長兼務	井上 親司	うれしの茶振興課長 農業委員会事務局長兼務	
	総務課長 選挙管理委員会事務局長兼	辻 明弘	建設・新幹線課長	早瀬 宏範
	財政課長	中野 哲也	環境水道課長	副島 昌彦
	企画政策課長	池田 幸一	教育総務課長	峯崎 幸清
	税務収納課長	諸井 和広	学校教育課長	池田 正昭
	市民課長	大島 洋二郎		
本会議に職務 のため出席した 者の職氏名	議会事務局長	納富 作男		

# 平成27年第2回嬉野市議会定例会議事日程

平成27年6月15日（月）

本会議第4日目

午前10時 開議

日程第1 議案第58号 物品売買契約の締結について

日程第2 一般質問

順次	通告者	質問の事項
1	生田健児	1. 吉田地区で発掘された江戸時代初期の色絵磁器片の保存、展示について 2. 新幹線関連工事現場周辺の住環境について 3. 回覧板について 4. 観光振興プランについて
2	山口要	1. 観光における問題点と今後の取り組みについて 2. 地方創生問題について 3. 行政改革について 4. 災害対応について 5. 福祉問題について 6. 教育問題について

---

午前10時 開議

## ○議長（田口好秋君）

皆さんおはようございます。本日は全員出席であります。定足数に達していますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

日程第1. 議案第58号 物品売買契約の締結についてを議題といたします。

本日、市長から日程第1. 議案第58号 物品売買契約の締結についてが追加議案として提出され、議会運営委員会が開催されました。

日程第1. 議案第58号 物品売買契約の締結についてを議題といたします。

朗読を省略して提案理由の説明を求めます。市長。

## ○市長（谷口太一郎君）

皆様おはようございます。それでは、ただいま本日、本定例会に追加上程をお願いいたしました議案につきまして御説明を申し上げます。

議案第58号 物品売買契約の締結については、嬉野市内の小学校に電子黒板を導入するための売買契約を締結したいので、地方自治法及び嬉野市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の規定により、議会の議決を求めるものでございます。

以上、議案の概要説明を終わりますが、詳細な内容につきましては、担当部長から説明させていただきますので、何とぞ慎重な御審議をお願い申し上げます。

以上で、追加議案の説明とさせていただきます。よろしくお願いたします。

**○議長（田口好秋君）**

これで提案理由の説明を終わります。

次に、提出された議案の細部説明を求めます。教育部長。

**○教育部長（堤 一男君）**

では、議案第58号の説明をいたします。

物品売買の契約の締結について、下記のとおり契約を締結したいので、議会の議決を求めるものです。

契約の目的、平成27年度嬉野市内小学校電子黒板導入物品売買契約。

契約の方法、指名競争入札、契約金額2,349万円でございます。

契約の相手方、佐賀市鍋島町大字森田902番地、株式会社学映システム、代表取締役岡村祐臣。

平成27年6月15日。

理由といたしまして、地方自治法第96条第1項第8号及び嬉野市議会の議会に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定により、議会の議決が必要なためでございます。

よろしくお願いたします。

**○議長（田口好秋君）**

これで議案の細部説明を終わります。

お諮りいたします。追加議案第58号 物品売買契約の締結については、委員会付託を省略したいと思っております。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、追加議案第58号 物品売買契約の締結については委員会付託を省略することに決定いたしました。

日程第2. 一般質問を行います。

まず初めに、さきの梶原睦也議員の質問に対して答弁の訂正の申し出がっておりますので、これを許可いたします。うれしの温泉観光課長。

**○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）**

6月12日の梶原議員の一般質問の中で、現在の旅館数についての質問に対し、旅館組合に

加入している数を34件ということでお答えいたしておりましたけれども、32件の誤りがありましたので、訂正をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

**○議長（田口好秋君）**

それでは、通告順に発言を許します。

1番生田健児議員の発言を許します。生田健児議員。

**○1番（生田健児君）**

皆様おはようございます。議席番号1番生田健児です。議長の許可が出ましたので、通告書に従い質問をさせていただきます。

まず、質問の大きな項目といたしましては4点、吉田地区で発掘された江戸時代初期の色絵磁器片の保存、展示について、新幹線関連工事現場周辺の住環境について、回覧板について、観光振興プランについての4点であります。

まず最初の質問、吉田地区で発掘された江戸時代初期の色絵磁器片の保存、展示についてであります。

昨年発掘されました色絵磁器片や窯道具について、4月5日におやまさん陶器まつりにおいて発表と講演会が行われました。この貴重な発掘品についての市の保存、展示についての考えを伺います。

まず第1、この発掘についてどういう感想を持っているのか、第2、嬉野の観光や文化振興にとっても非常に価値の高いものであるが、市として保存、展示等、どのように活用していくのかであります。

再質問及び残りの質問は質問者席よりさせていただきます。

**○議長（田口好秋君）**

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

生田健児議員のお尋ねについてお答え申し上げます。

お尋ねにつきましては、吉田地区で発掘された江戸時代初期の色絵磁器片の保存、展示についてということでございます。

今回の発見を大変喜んでおるところでございまして、日本の色絵磁器の歴史上、歴史的な発見であるというふうと考えておるところでございまして、今回の磁器片の発見で磁器研究に新しい時代が来たというふうに思っております。

以前から吉田地区におきまして、色絵磁器の発掘の可能性等につきましては話が出ていたところございまして、今回実際発掘をされたということにつきまして大変評価をしておるところございまして、あわせて、4月5日には九州陶磁文化館の家田課長の学術報告等もあったところございまして、地域の皆さん方とともに、これからの保存等については研究をしてまいりたいと思います。

今後の保存等の進展につきましては、具体的には教育委員会が進めることになると思いますが、現在は個人所有でございますので、市がかかわるためにはいろんな調整も必要だろうと考えます。発見された磁器が焼き物の歴史上でどのような意味があり、どのように位置づけられるか、学術的に確定されていくことと思います。その経過を見ながら、嬉野市としても適切な活動を行ってまいりたいと思います。

以上で生田健児議員のお尋ねについてお答えといたします。

**○議長（田口好秋君）**

教育長。

**○教育長（杉崎士郎君）**

吉田地区にて発掘された色絵陶磁片について、2点お尋ねでございますので、通してお答えさせていただければと思います。

4月5日の基調講演では、吉田地区における陶業の新たな報告が行われ、色絵の発展過程における資料として高い評価をいただきました。日本における色絵陶磁の草創の時期に近い資料であるというふうに思っております。有田と蓮池藩との関係、工人集団、顔料の調達、輸出の形態など数々の問題を提起していただいたというふうに思います。自分自身、聞きに行つてそういう感じをいたしました。

今回の発見は、文化財保護法94条の届けがなく、不時の発見となり、出土品も個人が所有されています。保管者の理解をいただきながら、保存や公開に努めていきたいと思っております。

また、赤絵発見の報道や会議等での指摘から、関係課に届けられた民間開発行為などについては全て合議されるようになり、保護に対する意識も庁内でも高揚してきていると思っております。

2点目の観光や文化振興も大切ですが、文化財保護行政の体制や基礎的な調査を行い、以降、土地に残るものの色絵窯跡の確認を行い、歴史的な裏づけが必要と思われれます。地域の関心も高く、遺構の重要性からも県との総合的な研究体制の確立が急務ではないかと考えております。

以上、2点お答えいたしました。

**○議長（田口好秋君）**

生田議員。

**○1番（生田健児君）**

ありがとうございました。現在、市として保存しているといいますが、コレクションしている焼き物というのはどういうものがございしますか。

**○議長（田口好秋君）**

教育総務課長。

○教育総務課長（峯崎幸清君）

旧嬉野時代に窯跡調査ということをして5年間ぐらい実施しております。それにつきましては、嬉野市の教育委員会のほうで現在出土品の整理が終わりまして、今、嬉野医療センターのほうにあります施設のほうが一部使われていないのがありますので、そちらを収蔵庫として活用し、保管しております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

今回のような出土されたものの展示及び講演会といったものは、自分も小さいころから嬉野にいまして初めてだったんですけれども、以前もこういう発掘に際しての発表なり講演会なりというのは行われたことはあったのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

教育総務課長。

○教育総務課長（峯崎幸清君）

お答えいたします。

旧嬉野町時代に400年事業だとか、そういうことで吉田を中心とした焼き物の展示会だとかを実際されております。それと九州陶磁館のほうで平成元年に調査しました折に、地元のほうの窯元さんたちの御協力をいただいて調査が実施されております。その折も地元のほうでいろんな説明会とかが実施されたとお聞きしております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

先ほど市長の答弁にもありましたけれども、今回出土されたものも、今現在といたしましては、個人の所有物ということではありますけれども、例えば所有されている方なりが、市としてちゃんとした形で展示、保存なりしてくれるというならば譲っていいということなら、町としても具体的に展示、保存ということに関しても進めていく考えはありますでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

個人の方が今保有をしておられるわけでございますので、私のほうでいろいろ発言することはできませんけれども、私としては、非常に貴重なものだということで判断をいたしまし

て、担当課長には先方と連絡をとっていただいて、御意向がどういうものであるのかということをやっぱりちゃんと確認をしてからというふうに考えております。ただ、非常に貴重な事件でございますので、私どもだけではなくて、やはり県全体の貴重な財産でもあるというふうに思いますので、県あたりとも十分連絡をとりながら、私どもとしては対処していきたいと思います。

以上でございます。

**○議長（田口好秋君）**

生田議員。

**○1番（生田健児君）**

4月5日の講演会、教育長には来ていただいたと思いますけれども、九州陶磁文化館の家田学芸課長の講演の中で、吉田地区全体が当時の街並みなり、つくりが残っている歴史的な空間として保存していかなければならないという、地区全体が文化財的なものじゃないかというようなこともおっしゃられておりましたが、できたら、私としてもかつての江戸時代初期なりに、例えば代官所跡がどこにあったのかとかいうのがすぐわかるマップなりできたらいいなとは思っておりますけれども、最初の段階として、ちょっとした看板なりとかあったら、見に来られる方にもいいかなと思います。

現在、おやまさんなり、辰まつりなり行われていない時期に吉田の焼き物を見に来られるお客さんは、大体吉田の窯元会館に見に来られますけれども、窯元会館だけではなくて、吉田のそういった跡地なりなんなりをちょっと整備すれば、大分いろいろ回って見られるんじゃないかとも思います。

そういった意味で吉田全体といいますかね、かつての窯跡なりなんなり、発掘調査のあったところなりを、ちょっと周遊ルートなりといいますかね、そういった感じで考えてもいいんじゃないかと思っておりますけれども、教育長としてはこの地区全体の文化財化ということに関してはどうお考えでしょうか。

**○議長（田口好秋君）**

教育長。

**○教育長（杉崎士郎君）**

九州陶磁文化館の家田先生の講演を聞いて、私も色絵が出たというのは新聞記事で見て知ったわけでございますので、本当に興味を持って講演をお聞きいたしました。

その中で、やはり今、議員が言われるように、皿屋地区一帯が窯跡であるということ、今回は、いおり窯の跡の泥をある方が保管されて発掘をされたということでございますので、そういう破片の生地の色とか、顔料であるとか、そういった小道具についても出土しておりますので、そういった意味では非常に希少価値の部分があるかと思えます。

昭和63年ぐらいにも一度話題にはなっていたようでございますけれども、今後、今、皆さ

ん住んでいらっしゃるから、そういう中で今回は車庫をつくられるということで泥を動かされたわけでございますので、そういう時期を見ながらする以外には、今住んでいらっしゃるのを一斉にのいてというのは、なかなかいかない部分がありますから、そういう緻密さを積み上げていく方法で、県あたりとも交渉しながら進んでいかなくちやならないんじゃないかと思えます。

それと同時に、やはり文献等の裏打ちあたりも必要にもなっておりますので、私たちだけではどうしても手薄になってまいりますので、やはり県との連携が本当に急務ではないかなということで考えております。

以上、お答えにしたいと思います。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

この発掘に関して、観光の面からはどうお考えですか、うれしの温泉観光課長お願いします。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

この発見に非常に興味を持っているところですが、観光課から申しますと、今の地域人づくり事業ということで、肥前吉田焼の販路拡大事業を行っています。その中で、窯元会館を訪れる方が以前からすると随分ふえられて、売り上げも増加しております。そのような中で、このことを活用しながら、観光の誘客の増加と、あと吉田焼の商工の振興につなげていければと考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

自分も嬉野という町の歴史的な厚みといいますか、バックグラウンドの厚みが増す発見もありましたし、非常によかったんじゃないかと思えます。

また、具体的に、自分としては江戸時代初期の陶片なり焼き物なりも展示、保存はもちろんしなければいけないと考えております。さらに、その後の時代の、例えば東インド会社とかかわりや、その後の戦前の大陸へ輸出された焼き物なり、そういった歴史ごとのコレクションを、市としてもぜひしていただきたいし、また、それを歴史ごとに展示して、保存も市として行うべきじゃないかと考えておりますが、市長としてはそういう文

化財保護と申しますか、そういったことに対してはどう思われますか。

また、今、教育長からもお話がありましたけれども、やはり県との連携が必要な部分も多分にあると思いますけれども、どうですかね、市として今後こういった焼き物関係については、保存なり、どうお考えでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

嬉野の市内全体、焼き物の宝庫というふうを考えておきまして、今回の発見につきましても非常に高く評価しておきまして、また、多くの方にぜひごらんいただきたいなというふうに思っております。

いろんな経過はありますけれども、九陶のイベント等につきましても、私も必ず参加をさせていただいて、吉田焼のことについてはちょっと話をきて、今展示もしていただいておりますので、その点では県全体の理解も少しずつ進んできたのではないかなというふうに思っておりますので、今後また、引き続き努力をしていきたいと思っております。

やはり私としては、今回の発見は嬉野ということよりも、県全体、日本の陶磁器の歴史にとってすばらしい発見であるというふうに思っておりますので、それぞれの組織でしっかり受けとめて対応していかなければならないと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

ぜひ、具体的にしっかりした保存、展示をしていただきたいと思います。

続きまして、次の質問に移らせていただきます。新幹線関連工事現場周辺の住環境についてということでございます。

新幹線関連工事現場周辺では、騒音や粉じん、また日照不足等、住環境の変化で困っている市民の声を聞きます。市としてはどのようにフォローしていくのか、また、そういうことに対しての調査やアンケートはこれまで実施されたことはありますか。

また、ここには書いておりませんが、例えば工事関係で地下水の出が悪くなったなどの声も聞きます。そういったことも含めて答弁をお願いいたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

嬉野市といたしましては、新幹線の工事につきましては、地権者を初め、周辺の皆様の御理解と御協力を得て工事が進められておるといふふうに承知をしておりますし、また、工事用の適切な配慮もあわせて行いながら進捗していると思っているところでございます。

この工事の始まる前にも、工事の担当者と地域の方との話し合いも何回も行われましたし、うちの職員も同席をさせていただいたこともございまして、要望等につきましてはいろいろ承っておったところでございますので、その辺については対応していただいているというふうに思っておるところでございます。

具体的に、私どものほうで調査やアンケートはとってはおりませんが、また、今御発言のように、御迷惑をおかけしているというところがあるとすれば、また対策を工事関係者と協議をしながらとっていくというのが必要かというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

市長は、工事が行われている現場の近くの住宅なりをごらんになられたことはありますか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

毎朝あそこらをずっと歩きますので、全部大体把握をしているつもりでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

自分も見ただすけれども、特に長谷地区が一番今回の質問にあったような問題を抱えていらっしゃると思いますけれども、長谷地区の現状についてはどう思われておりますか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

長谷地区も機会があればいつでもお伺いをいたしております。それで、地区の最初の説明会のときにもいろいろ御意見がありましたので、そこら辺については、担当の工事現場の皆さん方が地域の方とお話をしながら進めていただいているというふうに思っております。

す。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

自分も長谷地区を見に行つて、やはり家の真横に防音壁を立てて工事している現状なわけじゃないですか。そうしますと、当然音も鳴りますし、トラックの出入りによる粉じん等も起きますし、また、そのディーゼルの排ガスもでございますし、また、この防音壁が結構高いもんですから、以前より日照不足が起きているという声を付近の住民の方から聞きますね。今までは遮るものがなかったわけですからよかつたんですけども、防音壁のせいで陰ができてしまうということですね。

それとプラス、長谷地区は工事が来る前までは国道からちょっとずれた静かな住環境やつたわけですよ。それが工事が行われている現状で、さっき言ったようなことが起きているということで、市民の方も、私が聞く限り、非常に困っているし、また、何度かどうにかしてもらえないかとおっしゃっていますので、市としてはそういう声は拾われていないんですかね。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

現在は、私どものほうに直接は来ておりませんが、あそこにちゃんと現場の責任者はおられますので、現場のほうにはいろいろお話があつているんじゃないかなと思つております。ただ、説明会をされるときに、いろんな御意見をお聞きしておりましたので、そこらについては、やはり工事現場の責任の方々が地域の声を十分お聞きいただいて、いろんなトラブルが起きないようにやっていただくということが原則でございますので、また今回御意見もいただきましたので、工事関係者には伝えてまいりたいと思つます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

工事関係の方が聞かれるのもいいとは思つますけれども、やはり市として動いていくべきだと思いますので、市の職員なりで戸別訪問して、「現状はどうですか」、「生活に変化はありませんか」と聞いて回ることがやっぱり一番市民としても、業者の方が来られてそういったことをされるより、やはり市の職員の方が来られてそういう調査といたしますか、意見

をお伺いするのが現場の住民としてもいい印象を持たれると思いますし、また、自分もそういう工事が始まる前の業者からのアンケートみたいな話をちょっと聞いたことがあるんですけども、実際、土砂を運ぶトラックが行き来するので、家なり壁なりのひび割れとか発生するおそれがあるので、ちょっと一旦家の周りを調査させてほしいということを聞かれるようなことがありましたけれども、実際、ひびなりなんなり入ったとしても、言っても因果関係が証明できないじゃないですか、もうはっきり言って個人レベルだと。こう言っちゃなんですけれども、泣き寝入りみたいな形で我慢を強いることになっちゃうというのがやっぱり現状だと思います。それで、やはり長谷地区の方に関しても、そういう声が出ていないというのは、結局我慢を強いているような現状だと思うんですね、言っても仕方ないというのが根っこにあって。だから、声が出ていないんじゃないかと思います。

だから、市としては、積極的にこちらから聞きに行って、少しでも住環境の改善なりなんなり、そういったフォローをしていかないと、お話を伺っていても不満が高まっているというのを感じたんですけれども、市長としてフォローについて、もっと丁寧にしていただきたいと思います。どう思われますか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

今そういうお話を承りましたので、そこらについては適切に対応できるように努力をしていきたいと思っております。

業者にお伺いをさせるということではなくて、業者に発注された機構という、建設される公的な組織が、公的というか、別の組織があるわけがございますので、その組織の皆さんと地域の方々とはもう話し合いもしておられますので、こういう話が出ていますということについては、もうお伝えをして、これについては地元の方の御了解をさせていただくようお願いもしてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

現在、長谷地区も含めて、工事が行われているところというのは、現在の工事が終わった後も当然新幹線が通りますので、そういった面での音なりなんなりも発生するでしょうし、あると思っておりますので、なるべく丁寧に住民の皆様の声を聞いて、拾って行って、少しでも市民と市の関係がよくなるようお願いしたいと思います。

次の質問に移らせていただきます。

回覧板についてということでございます。まず1番、回覧板の掲載物について、どういう要件のものが掲載可能か、また、掲載不可要件はどういったものになりますか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

一般的に、回覧板につきましては、やはり町内会や自治会の行事のお知らせ、また決定事項、安全防犯、防災情報、また、生活に密接に関係する情報などを伝える手段として普及して、今日も続いているものであります。

市が配布する各種お知らせなども、これにより周知をさせていただいているところでございます。また、特定の業者からのチラシや特定の宗教等についての回覧は、行政からの回覧といわゆる誤解をされないように、行政からの文書と別に観覧していただくようお願いしているところでございます。

そういうことでございますので、掲載物内容等につきましては、まずは発行責任者が責任を負います。そして、回覧することに決定した、例えば区長さんなどが責任を持って回覧板を回してもらえというふうに認識をしているところでございます。

そういうことで、市から回覧をお願いしました内容につきましては、当然市が責任を持つておるということでございます。

以上でお答えとさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

そうしますと、例えば市からの配布物に関しては、市の掲載物についての規定と申しますかね、こういったものは——ちょっとごめんなさい、さっきの答えでちょっとよくわからなかったんですけども、この載せる掲載物全体について規定というのはあるんですかね、載せてはいけないものは、例えばこういったもの、こういったもの、こういったものといったような。すみません、もう一度お願いします。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（辻 明弘君）

お答えいたします。

そういった細かい規定は特に設けておりません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

そうしましたら、市からの分以外の地区の分というのは、それぞれの区長さんなりにもう全てお任せしているということでしょうか。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（辻 明弘君）

お答えいたします。

市から囑託員の方をお願いしているものについては、一応総務課のほうを通じて配布をしておりますので、そこで一応チェックをした上で配布しておりますので、あとは配布のほうは囑託員さん、地区でいえば区長さんというふうになるんでしょうけど、そちらのほうをお願いをしているということです。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

わかりました。こちらの質問については以上で、了解しました。

次の質問に移らせていただきます。観光振興プランについてであります。

まず、第1の質問、2月にホームページに掲載されました観光振興プランは、かつて予算化された観光振興計画の成果ということでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

平成22年度予算で策定したプランを観光振興計画の策定事業として行ったところでございまして、以前お話もありましたように、22年の4月からスタートしたわけございまして、24年の3月にでき上がっております。その成果の周知ができておりませんので、2月にホームページに掲載をいたしましたということでございます。

以上でお答えとさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

そのホームページに掲載されました観光振興プランについて、どういった経緯で、どういったメンバーが作成したのかということです。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

市役所内のまずは若手職員によるプロジェクト会議を編成しまして、現状の把握や意見聴取を始めたところでございます。また、並行して専門業者に委託して、観光客と受け入れ側とのギャップ調査など、カスタマー分析を行っているところでございます。そうしてできました素案を調整しまして、観光協会との最終調整を経て完成をしたということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

そしたら、ホームページに掲載されていますプランについて、作成といたしますか、結局データなりは調査した業者が行っているわけですね。つまり、結局、当初予算化された分というのは、その調査に使われたという認識でいいんですかね。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

御発言のとおりだと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

わかりました。まず、こちらの掲載された分のデータが全体的にやはりちょっと古くなっておりますけれども、改訂版を出される予定はあるのかということと、また出されるとしたら、いつぐらいを予定されているのかということをお聞きします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

数値等にもつきましても非常に少ないというふうに思っておりますし、また、データ等につきましても、最終的には観光協会関係の方とも一緒に見ていただいたわけでございますけれども、やはりデータの改正ということは必要だというふうに思っておりますので、もう一

回できるだけ最新のデータ等が挿入できるように努力をしていきたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

それでは、具体的にいつぐらいにまた次の分を制作するというのは、そういう具体的な時期というものは、まだ決まっていないんですかね。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

まだ具体的には決定しておりませんが、数値等につきましては、適時やはり調整をしていかなければならないと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

先ほどから市長の説明を聞いておりましたけれども、結局、若手職員と進めていかれたということですけれども、前回、前々回より会議録なりをちょっと求めていたんですけれども、そういったものは結局なかったんですかね。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

いろいろ調査したところ、若手職員のプロジェクト会議の第1回目の議事録のようなものはありましたけれども、その後は会議の起案とか通知とか、そういうのしかございませんでした。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

わかりました。なかったならなかったということで、なるべく早く言っていただかないと、自分も求めたことに対してのレスポンスがないと、逆に何も言いようがなくなっちゃうんで、ないならなくて、わかった時点で言ってほしいというのが当然ありますし、特に議場の場で、

一般質問の場で言ったことですから、先ほどの観光振興プラン掲載について、流れについても、話をずっと伺っていたら、おっしゃられていることが二転三転といいますか、その都度ちょっと変わっちゃっているというのは、やっぱり答弁としてどうなのか。

ですから、もし現場でちょっと答えようがなかったら、後で調べて、ちゃんとした形で出していただいたほうが、お互い同じようなことをずっと質問しなくてもよくなりますし、特にこの一般質問の放送というのは市民の方もごらんになられているわけですよ。市民の方がもう市政運営を考える上での参考にもされていますし、やはりここで言われたことが、市民の方も見る上で、それが正確なものだというふうな前提でごらんになられているわけですから、ぜひ正確な情報を出していただきたいと思いますけれども、市長どうでしょうか。

**○議長（田口好秋君）**

市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

お答え申し上げます。

今、御発言のとおりだと思って日ごろ努力をいたしておりますので、そこら辺についても継続してしっかり信頼関係を損なわないように努力をしていきたいと思っております。

以上でございます。

**○議長（田口好秋君）**

生田議員。

**○1番（生田健児君）**

ぜひとも正確な情報を出していただくことをお願いしたいと思いますし、また、この質問自体の観光振興プランについてということも、市民の方は市がこれからどうしていきたいのかというのをやはり知りたいわけですよ。それについて、どうしても現状の掲載されましたプランにつきましても、何かちょっと、いまいちよくわからないし、また、データ自体も古いのでちょっとどうなのかなというところがやっぱりあると思います。

それで、ぜひとも早い段階で改訂版をつくっていただきたいですし、また、うれしの温泉観光課長に質問ですけれども、次回の改訂版をつくられるときの政策の流れというのは、今回若手プロジェクトチームと調査業者という話でしたけれども、また同じような流れで政策されるのでしょうか。また、政策の過程はちょっと変化していくのでしょうか。

**○議長（田口好秋君）**

うれしの温泉観光課長。

**○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）**

お答えいたします。

計画策定から5年たっていますので、今、国の観光立国の施策なども大きく変化しておりますので、今後は早急にギャップ調査等も行いながら、そして、他市町では策定に当たって

は、委員会等の設置もなされておりますので、そのあたりも検討しながら進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

産業建設部長。

○産業建設部長（山口健一郎君）

ちょっと追加ですが、確かに新たに改訂版をつくらないといけないというふうに思っております。委託する内容を特記仕様書にきちんとうたって、各団体との連携とか、そういうことをきちんとうたって発注に努めたいというふうに思っています。

以上です。

○議長（田口好秋君）

生田議員。

○1番（生田健児君）

ぜひ、次回政策されるときには、政策や調査の過程を明瞭化して、市民誰にでも、どういうふうにしてつくられているかというのをわかりやすくしていただきたいというのと、プラス、また、やはり時代がどんどん変化していっておりますので、その時代時代に即した未来志向の嬉野観光についてのプランを示していただきたいと思っております。

これで私の質問を終わらせていただきます。

○議長（田口好秋君）

これで生田健児議員の一般質問を終わります。

引き続き一般質問の議事を続けます。

17番山口要議員の発言を許します。山口要議員。

○17番（山口 要君）

議席番号17番、山口要です。

さて、今、国会におきましては、集団的自衛権の行使という問題について論戦が交わされておりますけれども、戦後70年が経過をし、戦争を知らない世代が人口の7割を超える今こそ、戦争の悲惨さについて改めて考え、後世に伝えていかなければならない、そのように痛感をしているところでございます。

それでは、ただいま議長の許可をいただきましたので、本題である一般質問に移りますけれども、私自身、議員の任期が押し迫る中において焦りもあって、今回も大きい問題で6問、小さな問題まで含めれば42問という、まさにてんこ盛りの通告ということになっております。

ただ、私はこの一般質問の場において、執行部の皆さん方とバトルをしようという気持ちは毛頭ございません。時間内に消化し切れない分もありますし、そういう中において通告した提案について、それぞれ各所管のところにおきまして今後の施策の展開ということで検討

を加えていただければ幸いですと思うところであります。

それでは、中身に入りますけれども、その前にまず御訂正をお願いしておきます。

16ページの地方創生問題についてということの中の③の「地域経済分析システム（リサーチ）」を「（リーサス）」に変更しておいてください。よろしく願いいたします。

さて、今回の地方創生における総合戦略プランにおいては、私自身としては、以前から申し上げておりますように場当たりの発想と言わざるを得ないのであります。そもそも各自治体が地域の实情に合った施策をつくり、それをたった半年足らずで作成をする。そして、評価対象期間の5年間で具体的な成果を上げることが至上命題ということになっておりますが、それができるのであれば、今まで地域活性化のための施策で何十年も苦勞することはなかったのではないだろうかというふうに思うところでもあります。すなわち、何十年もかかってできなかったことがたったの半年、5年足らずでできるのか、非常に不可解なところでもあります。

さらにはまた、国におきましては、1980年代においてリゾート開発やふるさと創生を推進いたしました。そして、そのときにも各自治体は国に言われるがまま創意を工夫し、事業を行った経過があります。その結果どうであったか。宮崎のシーガイアに見られるように、地域は活性化するどころか、むしろ停滞し、多くの借金を抱えて財政難に陥ったというのが現実の姿ではなかったでしょうか。

そもそも今回のこの地方創生ということが人口減少、すなわち日本の人口が2008年の1億2,800万人から2048年に9,900万人に減るという予測の危機感から出たとするならば、その人口予測においても、昨年6月の閣議決定におきましては、2060年に1億人という目標が掲げられました。しかしながら、これが半年後の12月になりますと、その目標というものが展望という言葉にすり変わったわけでもあります。

仮に2000年に1億人という設定をとするならば、出生率を2.07以上に上げなければいけません。しかし、このことについては、2020年以降に問題先送りというふうになっております。このように、冒頭申し上げましたように、まさに目先だけの場当たり地方創生と言わざるを得ません。

私が以前、「地方早逝」、その創生を早く死ぬという言葉をもじって表記いたしましたけれども、まさにそういうことでもあります。

いずれにしても、時間の経過とともに国側の熱気も薄れ、そのうち地方創生といった言葉も一時はやったねと振り返られるかもしれませんということをまず申し述べておきたいと思っております。

しかしながら、このような愚痴を言っても、最終的には国の方針に従わざるを得ないのが現実の地方の姿でもあります。そのことを念頭に置いて、今回、地方創生にとるべき課題について問題提起をしてみたいと思っております。

まず、地方創生問題についてということでの1. 地方人口ビジョン・地方版総合戦略プラン作成について、①今回のプラン作成では重要達成度指標（K P I）が求められているが、指標作成に向けての問題点はどのようなものがあるのか、その解決策についてはどう考えているかということについてお答えをいただきたいと思います。

あとの質問については質問席より行います。

○議長（田口好秋君）

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

○市長（谷口太一郎君）

山口要議員のお尋ねについてお答え申し上げます。

お尋ねにつきましては、地方人口ビジョン・地方版総合戦略プラン作成について、今回のプラン作成ではK P Iが求められているが、指標作成に向けての問題点はどのようなものがあるか、また、その解決策についてはどう考えているのかということでお答え申し上げます。

重要達成度指数といいますのは、実現すべき成果、つまり結果として市民にもたらされた便益に係る数値目標を設定するということになっておりますので、総合戦略の中で成果を重視した客観的な指標の設定を行う必要があると思います。

また、P D C Aサイクルによりまして、取り組み状況をきめ細かく点検、検証していかねばならないというふうに考えておるところでございまして、今後、私どもといたしましても、ビジョンに基づきまして努力をしてみたいと思います。

以上で山口要議員のお尋ねについてお答えとさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

この指標を作成するに当たっては、地方版産業連関表というものが必要になってくるというふうに思いますけれども、そのことについてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

総合戦略の中では、単に人口の議論をするのではなく、どういう産業でどのような人材を確保していくのかと、いわゆる御発言のようなことが肝要となってくるということでございます。

嬉野市では、若い世代、特に多くの女性の雇用が生み出せるような企業の誘致と、女性が就労していただきながら子育てしやすい環境を整えることで女性の労働力向上が図れればと思っておるところでございます。

また、若い世代の結婚、出産、子育ての希望の実現という総合戦略の基本方針がござい  
ますので、戦略会議や策定推進委員会の中で有効な情報を収集していきながら、意見を取りま  
とめてまいりたいと考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

私が言っているのはそういうことではないんです。それは目標であって、K P I、その指  
標についてどうするのかということをお尋ねをしているんですよ。

今おっしゃったのは、2番目の、要するに今後の総合戦略指標ではなくして目標というこ  
とのお答えを今されたわけです。全くもって私の質問とは違っております。

ですから、冒頭1番目に申しましたように、K P I 指標をつくるためには地方版の産業連  
関表というものが必要になって、その連関表をベースにして指標というものを作成してい  
なくてはならないわけです。

そこで、あわせて言いますけれども、それをするには3番目に上げておりますリーサス、  
そのことのビッグデータが必要になってくるというふうに思うわけですね。

このビッグデータ、今、国は各自治体に提供すると言っておりますけれども、このビッグ  
データ、リーサスについては、なかなか一地方公務員では分析し切れない部分があるとい  
うふうに私は思っているわけです。そのことについては今後どうされていくお考えなのか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

このリーサスにつきましては、先般の市長会の研修の中でも有効利用するよ  
うなことで説明があったところございまして、私もリーサスについては見てはみたわけ  
でございますけれども、議員御発言のようになかなか難しい形になっております。

そしてまた、データ自体が今のところ、私が見ました範囲では私どもが持  
っておりますデータがそのまま入るというふうな状況でございまして、将来的なデータあたりが  
なかなか厳しいなというふうに思ったところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ですから、私が言うのは、1と3、これは完全にリンクをしているわけなん  
ですね。

この前の議会のときに私申し上げましたけれども、このビッグデータを分析するには国から来ていただいたコンシェルジュ等々が必要ではないかということも申し上げました。そのコンシェルジュについては今どのようなお考えをお持ちですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○17番（山口 要君）

お答え申し上げます。

計画をつくっていく段階では、ぜひ御支援をいただきたいというふうに思っておるところでございます。先般、県全体でコンシェルジュとの意見交換会もさせていただきました。それぞれ各省庁に分かれておられますので、今から私どものつくる計画等について、こういう段階でこの方にお願ひするというふうな計画づくりをしていかなければならないというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

以前の議会においては、早速コンシェルジュについてはアプローチをしていきたいというふうな答弁があったわけなんですけれども、そのことについてはどうなんですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

県の担当課と私どもの企画のほうとは調整をいたしておりますので、そういうことで私どもとしてはコンシェルジュの御協力をいただきたいという話はしてまいったところでございます。各自治体もそういうふうな話はしたと思っておりますけれども、今回、そのようなことで、いわゆる意見交換会も設けていただいたというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

問題が多いので次に進みたいと思っておりますけれども、次に、先ほど市長が答弁違いをされたわけなんですけれども、その2番目の分、総合戦略においては、単に人口の議論をするのではなくして、どういう産業でどんな人材を確保するということが肝要となってくるということを質問に上げておりますけれども、実は総合戦略推進委員会、このスケジュール、そして議事

録について見させていただきました。

この総合戦略推進委員会、このスケジュールで今の予定とすれば、最終的には9月上旬に議会に総合戦略素案の提示というふうな予定になっておりますけれども、9月といたしますともうあと二月ちょっとしか時間がない、それで間に合うんですかね。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

非常にタイトなスケジュールになっておりますけれども、確実に10月30日までには策定をしたい。これは新型交付金も関連してきますので、そこを目指して策定をしていくことにしております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

最終的にはそこがあるからそれまでに仕上げなければならないことになってくるというふうには思うんですけれども、今の予定でいきますと、今、第1回の委員会が開かれて、そして今月半ばまでに推進委員の意見聴取シートの回収と、そして7月に第2回推進委員会、8月に第3回推進委員会。あと2回ですよ、推進委員会。今の予定でいきますと、この素案を作成するまでにね、予定としては。これでいきますと2回ですよ。3回じゃありませんよ。

2回でそこまでのまとめができるのかどうか、甚だ私は疑問に思うわけなんですけど。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

確かに2回でどれくらいの取りまとめができるのか、非常に私も不安ではありますけれども、この策定につきましては、かなりたたきのところから深くできたものを委員さんあたりに示して議論を進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それでは、臨時の委員会というのは想定はされておられるんですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

当然進捗状況によっては、2回ということですが、2回以上の委員会は必要になると思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひそういう形でやっていただきたいということを要望しておきたいと思います。

恐らく行政におけるまち・ひと・しごと創生本部会議というものも適宜行われると思うんですが、そこともリンクしながら開催をしていただきたいという要望をこの分についてはしておきたいと思います。

今回の総合戦略推進委員さんの名簿を拝見いたしまして、今までの委員会とは全く違った形でいい人選が行われたなというふうに敬意を表すところなんですけれども、その中において議事録を読ませていただきますと、いろいろ本当にいい意見が出ております。

その中で、先ほどの2番のことに関連するわけなんですけれども、例えば、ある委員さんが子育てはしてもらえないものではない、自分がするものだし、近所との助け合い、自助、共助、公助で全部がうまくバランスがとれていないと、共助、公助だけが強くなっても困るというふうな御意見が出ています。

私は、これにもう1つつけ加えたいのは、自助、共助、公助ということの中で、そこで近助——近くを助ける近助。近くのスペース、近所というのをもじって「近助」というすき間の分、3つの分のその「近助」というものを一つつけ加えて今後検討していただきたいというふうに思うところであります。

そしてもう1つは、結局委員さんの中で豊かさを何に求めるかが重要だと。このことは本当に大事なことだろうと。これが一番ある意味ではキーポイントになってくるだろうというふうに私は思っております。

そしてまた、さらには委員さんの中で、子育て支援の中でも住環境を中心に考えるのもおもしろいというふうな意見もありますし、そして、女性が働く職場にターゲットを絞って誘致することも必要だろうと。女性の職場があるということは、居住地選択の誘因にもなるというふうな発言がっております。

ですから、このような意見というものを本当に参考にしていきたいと思っておりますし、もう1つは、今月半ばに推進委員さんの意見聴取シートというものをされますよね。その中にも恐らくすばらしい意見が出てくると思っておりますので、それを大事に大事に意見というもの

を尊重していただいて、今後の反映にしていっていただきたいというふうに思うところでありますけれども、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

今回、委員さん9名のうち4名さんを女性の委員さんに入らせていただいております。今、紹介をいただきました御意見、非常に素晴らしい意見が女性の委員さんから特に出ておりますので、こういう方たちの意見を十分に尊重して総合戦略の中に反映させていきたいと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

次に、4番目の分です。

他市等においてはワークショップというものを開催されておられますけれども、本市においては、そのことについて開催するお考えはないのかというふうな質問でありますけれども、実はやはり今、危機感というものを市民共有して抱かなければならない。そして今回、このような創生ということについても市民がそれぞれ気持ちとして持ち合う。そのためには市民すべからずボトムアップを図っていく必要がある。そのための環境づくりというものも必要であるというふうに思う中で、今回の委員会だけではなくして、そのようなワークショップの開催というものも私は当然必要になってくるだろうと思っておりますけれども、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

隣の市のほうでワークショップの開催をという計画がございますけれども、確かにワークショップ等で御意見等をもらえれば、より市民の方々から広く意見をもらえらるとは重々承知しておりますけれども、嬉野市、本市といたしましては、ワークショップという形ではなくて、この推進委員会を中心として進めていきたいというのを基本にして、あとより広く声を聞きたいということで、ホームページ等で市民の声、提案窓口なるものの設置を考えているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ホームページということでは言われましたけれども、総務部長、今までパブリックコメントについて前もお聞きをしましたけれども、どれだけ反応がありましたか。

○議長（田口好秋君）

総務企画部長。

○総務企画部長（池田英信君）

お答えいたします。

残念ながら、パブリックコメントについては全然ない場合もございますし、関心がある分については、幾らかは出てきております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

現実はそのようなところなんですね。だから、なかなか役所の方がパブリックコメント、それとホームページ等々といっても、市民の中にはそれで意見を寄せようという人はなかなかいない。それが現実だろうというふうに思うんですよ。

だから、最終的に役所の人にすれば、こうしてホームページでもやったけれども、何も回答がなかった、質問がなかったというふうな結果、それは言えると思うんですけども、中身は何にもないわけです。

だから、今後、もう日程的に無理かもしれませんが、いずれかにおいて1回でもいいですから、そのようなワークショップというものを開催していただくように御努力をお願いしておきます。

そしてもう1つは、結局、ここの予定の中で、これも総合戦略素案についてパブリックコメントの実施ということで予定が上がっております。ですから、これについても、先ほど申しましたように現実はそのようなことなので、例えば、行政回覧等を使ってそのことの市民の意見を求めるということもまた必要ではないかなというふうに思うわけです。

実は、私ども議会において基本条例をつくるときにパブコメを行いました。しかし、パブコメにおいては、ほとんど市民からの反応はありませんでした。ところが、行政回覧をしたことによって、その中でいろんな意見が寄せられたわけです。ですから、ぜひそういう形を採用されるお考えがあるのかどうか、再度お尋ねをいたします。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

前回の議会の中でも議員からそういう御提案がありましたので、当初の資料を見て、行政回覧という形でされておりましたので、今回、総合戦略につきましてもぜひそういう形でもやりたいと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひそういう形で行っていただきたいと思います。

もとに戻りますけれども、今回、西村議員の質問の中で専門的な人口分析をコンサルに依頼というふうなことで答弁されましたけれども、専門的な人口分析というのはどういう形で行われるんですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

今回委託をしたということで、専門的な能力が必要ということで答弁したわけですが、人口減少対策でより有効な手段、そういうのが他市との比較、この辺のリーサスの活用まで含めてお願いをしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひ人口の目標設定ということについては、本当にこれだけ減るのかというところの数字を出していただきたいというふうに思うわけです。

今回、総合戦略をするに当たって、今、京丹後市が作成をいたしましたけれども、京丹後市においては人口増というふうな数値をもってはじきを出しております。それを見た石破さんは笑ったそうですけれども、そこら辺のところはシビアな形でやっていただきたいというふうに要望をしておきます。

実は、恐らく人口減少というのはもうとまることがないと。県のほうでも試算を出しておられますけれども、特に佐賀県の西部においては人口が減っていくだろうという予測がされております。これは必然的なことだろうというふうには思いますけれども、その中で大事なことは、人口が減っても活力を失わないまちへの再編の取り組みというものが私は大事になってくるだろうと思います。

さまざまな都市機能というものを集約して、少ない人口の中でも暮らしやすいまちをつ

くっていく。そして、少子化対策の効果があらわれる遠い未来を待つことが重要になってくるだろうと思いますので、今回の5カ年の実施計画というものがありますけれども、それとは別にロングスパンの中での大綱というもの、戦略的発想というものをぜひお考えになっておいていただきたいというふうに思います。

もう時間がありませんので、次に行きます。

定住策で参考でありますけれども、島根県の浜田市も一つの例でありますし、そして、長野県の佐久市、後でまた事例をお示ししたいと思いますけれども、そういうことです。

実は、そういう中で定住ということになりますけれども、市長、住みやすさランキングを御存じですよ。（発言する者あり）じゃ、企画政策課長、御存じですよ。（発言する者あり）大体ははっきりした順位は言わなくていいですので、大体どこら辺の順位であろうと。全体から見て上位なのか、中位なのか、下位なのかということだけをお答えいただきたいと思いますけれども。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

住みよさランキングのことでよろしいんですかね。（「そうです。はい」と呼ぶ者あり）中位から下ぐらいかなと思っておりますけど。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

下位の上位じゃないですかね。中位の下位じゃなくして下位の上位だと思います、このランクからいけば。何番とははっきり申しません、ちょっと恥ずかしいから。これもやっぱり一つの参考になってくるというふうに思うわけです。

嬉野市の場合については、安心度ということについては本当に素晴らしい順位が上がっているわけです。これはやはり病院、あるいは特養施設等々が備わっているから安心度についてはかなり上位にランクされておりますけれども、利便度、快適度、そして財政力等についてはかなり下位のランクにされております。これは鳥栖市が全国で33位というランクになっておりますけれども、あとは押しなべて県内でも嬉野市の下にあるのは多久市だけです。

ぜひこの住みよさランキングというものも一度ごらんになって、今後の定住促進に向けての一つのヒント、手がかりにしていきたいというふうに思います。

次に行きます。

次に、地方創生交付金でありますけれども、今回一番の問題であります、自由度が増すといいいながらもかなりしぼりがきついように見受けられますけれども、そういうことについて市長はどうお考えですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

今回のいわゆる交付金が非常にしびりがきついというふうに見受けられるがどうかということでございますが、現在、予算化している先行実施型につきましては、幾つかの事例が示され、それに準じた施策を展開する計画でございます。

今後の運用につきましては、国において検討がなされておりますので、限りある財源の中で採択される計画を当市によってどれだけ策定できるかが重要と思いますので、そのように取り組みたいと考えておるところでございます。しびりがきついと言われますと、例が出ているということを考えますと、しびりはきついのかなというふうに思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ここでこのことについて論議してもしょうがないわけですが、次、2番の分で、これが示されていないということの中で、後でよくよく調べますと1,700億円次年度にするとということで、この分については訂正をしたいと思っておりますけれども、先行投資型で4,200億円あったのが2,500億円と1,700億円、次年度以降については1,700億円でいくということですが、考えてみればやっぱり金額的に非常に少ないわけですね、全国市町村にばらまくとした場合でも。これが本当にできるのかというふうな不安、危惧を抱かざるを得ないわけなんですけれども、市長、簡単にそのことについてお答えいただきたいと思っております。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

この政策が発表されて、当初から私としては最低5年、それから長ければもっと長く、いわゆる継続していただく予算ということがなければ非常に実施が難しいというふうに思っておりますので、今回の将来的な見方をすれば、市長会あたりと一緒に継続予算の完全な枠の確保ということをおっしゃっていただければならないというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

次に、行政改革についてということで行きます。

まず、2013年、日経グローバルにおいて調査がされ、2014年に公表がされました。全国市区の経営革新度調査、これでありませけれども、これについて総務部長、大体ランクとして上位、中位、下位とした場合にどれに入りますかね。

○議長（田口好秋君）

総務企画部長。

○総務企画部長（池田英信君）

残念ながら下位に当たります。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

この場合は下位の下位ですよ。恥ずかしいので順位は申し上げませんが、佐賀市は全国7位というランクづけがされております。

この状況を見ましたときに、透明度指標、情報公開、そしてオンブズマン等においては、前回のBからCCCというランクに落ちて、そして効率化・活性化度の指標、これは行政評価システムや財務指標という問題ですけれども、これもCからCに落ちている。そして、市民参加度、自治基本条例、審議会の公募と、これもBからCCCに落ちている。利便度についてもBからCCCということになっておりますけれども、ここで本市においては行政評価システム、そのことをいかに反映されておられますかね。

○議長（田口好秋君）

総務企画部長。

○総務企画部長（池田英信君）

残念ながら行政評価システムについてはまだ導入をしておりませんので、具体的な利用はございません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

行政評価システムを導入していないんですよ。それは全体のうちの大体何%になりますかね。

○議長（田口好秋君）

総務企画部長。

○総務企画部長（池田英信君）

お答えします。

全体の市の流れということでございましょうか。すみません。そのことについては調査をしておりません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

これが大体、今、もう半分以上は導入をしているんです。ですから、ぜひそのことについても検討をしていただきたいと思ひますし、ホームページでの施設利用というものは行われておりますかね。

○議長（田口好秋君）

総務企画部長。

○総務企画部長（池田英信君）

残念ながら行っておりません。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

このようにこの中身を見ましたときに、今、全国の各市区というのはかなり改善がされてきて、そして結局、自治体における経営革新というものに取り組んでおられるわけです。本市においては、先般、条例改正ということで個人情報というものについて改正がされました。それについては、次期の調査においては少しランクが上がってくるかと思ひますけれども、だから、この中身をもう一度ごらんになっていただいて、どのようなものに取り組めばいいのか、そのことについて今後どう対応していくのかということについて、再度真剣に検討をしていただきたいということを要望しておきたいと思ひます。

本当に一つ一つやっていけば、これだけで時間が1時間以上かかりますので、その中でもう一つお尋ねしたいのは、以前からずっと御提案申し上げます自治基本条例、これが以前も提案したころには全国の1割にも満たなかった。しかし、今はもう3割を超えるような状況に推移をしてきております。

これについては、市長、今後とも絶対するお考えがないのかどうか、それだけをお答えいただきたいと思ひます。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

現在の時点で自治基本条例をつくるという考えについては、まだ考えは持っておりません。  
以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

その理由は何ですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

話が少し飛びはねるかわかりませんが、いわゆる議会と私どもとの関係ですね、市民との関係というものにつきまして、今現在の嬉野市議会と私どもの関係等につきましてもそれぞれの立場でしっかりやっておりますので、市民の方々との関係も今は特に問題は起きていないというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それは、頭から拒否という考えの中でされるからそういう考えになっているんじゃないですか。自治基本条例のつくり方、メニューによっては、私はそこら辺のところも十分クリアできるというふうには思うんですけども。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

以前お話し申し上げましたように、自治基本条例をつくってということで随分研修をしてきたわけでございますけれども、しかし、今の状況で果たして追加して条例をつくる必要があるのかということを考えまして、今、そういうふうなことには至っていないということでございます。ほかの自治体もいろいろ考えておられると思いますけれども、現在のシステムの中で本当に住民と議会、そして私どもの間を考えた場合には、今の制度で十分ではないかなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

**○17番（山口 要君）**

これにおいては全くやる気がないので、次に行きます。

次に、判こ行政ということでありますけれども、本市の中において、今、ここで資料をおいただきいたしました。この中で、押印が不必要というものについて調査をされた経緯がありますか。

**○議長（田口好秋君）**

市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

お答え申し上げます。

それぞれの課で、いわゆる押印というのが必要なわけでございますけれども、各課大体わかっておりますけれども、市民課だけでも約20種類ほどあるというふうに理解しております、ほとんどが議員御発言のように判こが要るというふうな状況でございます。

以上でございます。

**○議長（田口好秋君）**

山口要議員。

**○17番（山口 要君）**

国の法令に従ってする分もあるかと思っておりますけれども、実は千葉市が改善をされたわけですが、3,000個、全体で押印が必要だったと。そのうちに2,000個については不要という形でできたというふうな事例があわけなんです。ですから、今はすべからくするような形になっているわけなんですけれども、もう一度見直すことによって押印が不要の分が私は出てくるだろうと。現実、先ほど申しましたように千葉市にそういう事例があるわけですので、そこら辺については市民の利便性というのを考える中においてもう一度検討をしていただきたいというふうに思います。

次に行きます。

次に、災害対応でありますけれども、BCPについては、本市では策定はされておられますか。

**○議長（田口好秋君）**

総務課長。

**○総務課長（辻 明弘君）**

お答えいたします。

策定しておりません。

以上です。

**○議長（田口好秋君）**

山口要議員。

○17番（山口 要君）

当然そうでしょうね、13%しか全国でないわけですので。それがここに示しておりますように、内閣府で簡略版が作成されております。それはお手元に届いておりますか。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（辻 明弘君）

お答えいたします。

先日届いております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

その簡略版をもとにして、今後制作されるお考えはありますか。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（辻 明弘君）

お答えいたします。

つい先日、私も初めて見ましたんですけど、これは検討する内容だと思います。策定に向けてとっております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

つい先日着いたんですか。お取り寄せになったんですね。はい、わかりました。

じゃ、簡略版をもって策定していくということですね。そういうことですね。確認をしたいと思います。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（辻 明弘君）

お答えいたします。

この場ですぐということではちょっとあれですが、（「はいはい」と呼ぶ者あり）検討を含めて前向きに検討していくと、策定に向けてということでしたしたいと思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

策定に向けてしていくということですね。するということですね。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（辻 明弘君）

お答えいたします。

策定に向けて最大努力したいと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

次に、置き地図ですけれども、本市の備蓄倉庫に住宅地区等の地図というものは保管されておりますか。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（辻 明弘君）

お答えいたします。

現在、備蓄倉庫のほうには住宅地図の保管はございません。（「はっ」と呼ぶ者あり）ございません。保管をしておりません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

これは絶対必要だというふうに思うわけですね、いざとなったときに。やっぱりゼンリンの地図等がないとその場所等もわからない場合があるわけですので。

そこで、ゼンリンが今、各市町村に無償で配付をしております。それはお尋ねになりましたですよね。結果としてどういう形でしたか。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（辻 明弘君）

お答えいたします。

これもつい先日になりますけど、ゼンリンのほうに直接御連絡をしまして申し込みをしたわけなんですけど、現在、福岡県のほうがゼンリンの配付を進めていると、協定を結びつつ

あるということで、福岡県が終わった後に考えるということになっております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

一応お申し込みされたということで、一安心をいたしました。

それでは、とりあえず本人通知制度。

これは以前、私は御提案申し上げた経緯があります。そのときには、たしか答弁として検討をいたしますか何か、そのような答弁だったというふうに思います。

ただ、その後、県内においても、あの当時はたしか2つの市ぐらいだったと思いますけれども——3市かな。その後、ずっと制定がされまして、つい先日も小城市が制定をされたわけです。

ここの質問事項に書いておりますように、提案以降、どのような検討がなされたのかということと、また、今日まで制定できなかった理由、そして、今後の対応についてどのようにお考えになっておられるのか、お答えをいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

本人通知制度についてお答え申し上げます。

これにつきましては間もなく導入の予定でございまして、平成26年の8月及び平成27年3月の2回に分けて杵藤地区の担当会議で検討いたしまして、足並みをそろえて導入していこうと確認したところでございます。

また、電算センターでも3月にシステム運用についての勉強会が行われたところでございまして、当初は平成24年度から検討が始まりましたけれども、メリット、デメリットを十分把握の上、よりよい方法で導入しようと協議している状況でございまして、秋には実施できるように進めておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひ導入に向けて努力をしていただきたいというふうに思います。

次に、認知症、登録番号つきキーホルダーについてはどのような検討をされたのか、お答えをいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

福祉課長。

○福祉課長（田中秀則君）

お答えをいたします。

キーホルダーにつきましては、小城市が行っている制度ということで、ひとり暮らしや徘徊のおそれのある人を限定してされているみたいでございますけれども、今のところ、こちらのほうとしては、ほかの自治体の例では、そのような限定をしないである年齢に達した人はみんな携行するということもあるようですので、いずれの方法をとるにしろ、今後検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今後検討をしていきたい。どのような検討をされていかれるお考えですか。

○議長（田口好秋君）

福祉課長。

○福祉課長（田中秀則君）

これが有効であるかどうかというふうなことも踏まえて検討していきたいというふうに考えております。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それでは、とりあえず前向きに検討していただきたいということだけは要望しておきます。

それでは、山口部長、宮崎課長、お待たせをいたしました。場所がちょっと違いますので質問しづらい分があるわけなんですけれども、まず、嬉野市の観光客動態というのが昨年と比較してどうか、そして、今後の見通しというものをどのように捉えておられるのか、お答えをいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

観光における問題点と今後の取り組みについてということでございまして、本年の嬉野市の観光客動態を昨年と比較してどうかということでございます。

ここ数年、宿泊客数がほぼ横ばい状態の中、平成26年につきましては、対前年比105%と

増加傾向にございます。特に外国人の宿泊数が前年比180%と好調に推移しているところでございます。平成27年度の正確な数値は把握できておりませんが、関係機関へのヒアリングでは引き続き好調であると伺っております。

今後の見通しにつきましては、国内観光客は景気の上向き及び円安の影響により海外旅行から国内旅行へのシフトも予想されますので、しばらくは微増、少なくとも現状維持というふうを考えております。

また、外国人観光客につきましては、当面は増加傾向にあると考えておりまして、以前より観光協会のインバウンドチームが中心となって海外への誘客活動に取り組んでいただいております。

また、セールスエリアもこれまで韓国、中国が中心でございましたけれども、最近では東南アジア諸国へと多方面に展開されておるところでございます。

市といたしましても、今後も関係機関と連携しながら、積極的に国内外の観光客誘致を実施していく必要があると考えております。

以上でお答えいたします。

#### ○議長（田口好秋君）

山口要議員。

#### ○17番（山口 要君）

これはデータをおいただきしております。

今、市長がお答えをされたように、25年から26年ですね、それが前年比105.6%というふうな数字が出ておりますけれども、これが実は平成20年、21年においては58万2,000人で、それからあとしてまいりまして、平成22年53万7,000人、平成23年51万2,000人とそこまで落ちた後に、平成26年度、やっと平成22年度の分に戻したというふうな状況でありますけれども、まだまだ21年の数字には戻っていない。21年の数字の58万2,000人に対して54万4,000人ということですから、まだ4万人ほどそこまで届いていないという結果であります。

平成27年についてどのような形になるのかどうか分かりませんが、そういう中で市長が言われたように、外国人観光客、これが急激に伸びております。実に平成21年の3,652人からして平成26年3万8,500人ということで本当に約3万人近く増加しているわけなんですけれども、ただ、そこで私が思うのは、先ほど市長の答えの中にもありましたけれども、以前の質問でも申し上げました。今、円安だから国内の日本人が海外に行くよりかも国内旅行にシフトしている。そのことをもっと重点的に捉えていくべきじゃないかということを以前申し上げた経緯があります。

それとあわせて、もう1つは、確かに外国人観光客数、ふえてはおります。ただ、全体から見たときには、54万4,000人の中でそれが3万8,500人ということですので1割にも満たないわけなんです。0.7%なんです、全体から見たときには。ですから、そこら辺のところ

の捉え方、確かに外国人にシフトしていくことも大事だけれども、もう1つ、その中でやはり円安ゆえにこそ、国内の旅行者がもっともっと嬉野市に来てもらうという努力が必要なんではないかなという気はいたしますけれども、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

両方相まってというのが一番いいわけでございますけれども、議員御発言のとおりだというふうに思っております。嬉野市は今、国際的にもなっただけでございますけれども、もともとは地域の皆さん方の湯治場、また、近隣のお客さんを中心に伸びてきたわけでございます。そういうこともございましたので、本年から関西、中京圏の事務所に1人派遣をするということを考えまして、いわゆる関西、中京方面からの、遠くは東京からもなりますけれども、観光客の皆さん方への直接的な働きかけと、そういうものを考えて派遣をしたところでございまして、ぜひ成果を上げていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

大阪事務所に派遣された理由はそういうことですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

県のほうの意向もございまして、いわゆる佐賀県全体のイメージアップというのもございまして、派遣の話があったわけございまして、私どもとしては観光面と、大きくは企業誘致ということも考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

こういう形で、とりあえず何とか微増という形になっておりますけれども、きょう旅館の軒数について発言の訂正があったように旅館は減少してきております。そして、今後においてもまだ廃業する旅館が、いつになるかわかりませんが、そのような声も聞いております。

本当に旅館業そのものについても非常に厳しい状況が続いているわけでありましてけれども、そこで、2番目の観光ファンドであります。

佐賀銀行は今回、観光ファンドを地域活性化支援機構と連携してファンド、これが全国4番目、九州で初めてなんですけれども、このことについての情報収集等はどのように行っておられるのか、そして、どのような認識を持っておられるのか、お尋ねをいたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

観光活性化ファンドにつきましては、この4月に佐賀銀行と地域経済活性化支援機構が本年6月設立予定として具体的な協議を開始されたということでございまして、現時点では設立に向け協議中でございます。

詳細についてはこれからのようでございますけれども、観光地等のにぎわい創出等を目的とした地域活性化事業を行う民間団体等に対し、事業に係る投融資実行及び専門家による経営技術支援、いわゆるハンズオン支援等を行う予定と聞いておるところでございまして、市といたしましても、地域活性化事業を支援する民間組織として歓迎をしているところでございます。

そういう中で、佐賀銀行のほうとしては、まずは2016年に有田焼創業400年を迎えるということで、有田町はパイロット候補地となっておりますけれども、私どもといたしましても、いわゆる近隣の宿泊施設を有しているということで事業展開も期待をされるというふうな話を聞いておりますので、非常に期待をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

そこら辺は私も十分に認識をしているわけなんですけれども、これが有田町を中心とした地域活性化モデルを作成ということになっているわけです。あくまでもベースは有田町であって、武雄市、嬉野市は周辺観光地という捉え方がされておられます。

ですから、そこで嬉野市の位置づけというのがどのようになってくるのかということが私は不安なところであるわけなんですけれども、そこら辺については、今知り得ておられる情報ではどのようなことになっておりますか。

そしてまた、もう1つは、この地域活性化モデルということについては、まちのにぎわいづくり、観光資源の掘り起こし、イベントの企画、実行を行うということまでうたわれておりますけれども、そこら辺についても御存じであればお示ししたいと思っております。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

先日、佐賀銀行さんとはこういう話をいたしておりまして、議員御発言のような趣旨で話もしたところでございまして、私どもと有田町との関係ですね、歴史的なもの、文化的なもの、そして塩田津と焼き物との関係とか、そういうものを十分話をさせていただきました。

そしてまた、私どもが今、ホワイトロードということで有田町と連携をしているということも話をさせていただいて、先方もそういうところで十分理解をさせていただいていると思いますので、まだ最終的な煮詰めはわかりませんが、やはり嬉野市も、有田町とつきますけれども、有田焼のいわゆる産地を取り囲む自治体ということで取り扱いはしていただくんじゃないかなと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

先ほど旅館の経営は非常にきついということを申し上げました。今回、このファンドということについてうたわれておりますのが、創業後間もなかったり、あるいは担保が十分なかったりして銀行融資では対応が難しい飲食店、あるいは宿泊施設も支援をするというふうなことになっているわけなんですけれども、そこにおいて行政としてのかかわりというものについてどのようにお考えになっておられるんですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

この前もお越しになったときも、まだ最終的な形がわかっておりませんが、行政というか、商工会とか、いろんな方との連携は当然出てくるというふうに思っております、そういう中で、今お話しの有田町を取り巻く産業の一つの群として嬉野市については理解いただいているんじゃないかなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

地域経済活性化支援機構については御存じですか。

**○議長（田口好秋君）**

市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

お答え申し上げます。

資料もいただいておりますので、理解しております。

以上でございます。

**○議長（田口好秋君）**

山口要議員。

**○17番（山口 要君）**

やはりこのファンドが設立されるそのことを最大限今後活用していく必要があるだろうと。そして、そこにおいては旅館組合、観光協会、商工会等の共同チームとといいますか、そこら辺の連携をとりながら、行政としてもある意味では深くかかわっていく必要があるというふう  
に思っておりますので、今の融資ではなかなかできないところも多々あるわけなんですね。今、幾ら金利が安いといっても、いざ実際のところになると、銀行は先ほど申しましたように担保がないからということで貸さない。ですから、そこら辺でファンドを活用することによって金融支援というものがやりやすくなるというふうに私期待をしているわけなんです。

ぜひそこら辺については、今後もう少し勉強されて、有効な活用方法というものについて御検討をいただきたいと思います。

次に行きます。

次に、鳥栖のプレミアムアウトレットであります。

今回、三菱地所、そして嬉野、武雄の旅館組合が連携して、鳥栖のアウトレットモールの割引券ということでなったわけですけれども、嬉野市においては、今回9件の旅館が上がっております。あとの旅館についても、ここに書いておりますように、その資格要件と申しますか、それがどのようなものであったのか、そして、この中に大手の旅館が含まれていないその要因は何だったのかということだけを、個人の旅館の名前は上げなくてもいいですから、その要因と申しますか、そこら辺のことについてお答えをいただきたいと思います。

**○議長（田口好秋君）**

うれしの温泉観光課長。

**○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）**

お答えいたします。

このプレミアムの件に関しては、観光協会とプレミアムのほうが話をされて、このプレミアムの件に対して手上げ方式で旅館組合のほうから各観光ホテルのほうにアンケートをとられた中で9件の申し込みしかなかったということでございます。

ですから、中身については個々の事情ですので、そのあたりはちょっと把握されていない

と思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

お尋ねしているのは、何かの要因があって参加されていないというふうに思うわけですね。ですから、要件というのがどのようなものであったのか、おわかりになっておられますか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

要件としましては、要するにチェックインのときにそういう企画がありますよということをお客様にお伝えするとか、そういうことの特典しかございませんけれども、あと何か条件とかそういうものはございません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

結局、今回の中に先ほど申しましたように大手の旅館が入っておられないんですね。ですから、非常にそこら辺厳しい、入れない理由が何かあったのかなという気が、まず参加のホテル名を見たときに思ったんです。

そういうことならば、ごくごく余気にとめないといいますか、そういうことであるならば御参加されたであろうなというふうな気がするわけなんですけれども、どんなですかね。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

そこまでちょっと旅館組合等に聞いておりませんので、個々のそういう事情等についてはちょっと聞いてみます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、後で調べてみておいてください。

これがとりあえず8月までという期限つきになっております。それ以降についてはどのような形になっていくんですかね。完全に打ち切りですかね。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

開業11年目で、26年3月まで来場者が550万人を突破されたということで、8月までとなっておりますけれども、今後もこういう連携をとりながら行けるようにお互い交渉をしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

そこで、今回こういう形で連携する中で、その加盟店の旅館のパンフレット等をアウトレットの中に置くことができるというふうになっております。今までそのアウトレットモール内に、案内所等々に嬉野市の観光パンフレットは置かれておりましたか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

パンフレット等は置いておりませんでした。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

私も尋ねました、この前行ったときに、で、置いていないと。今回いい機会ですので、加盟店の旅館のパンフレットを置くことができるようになっておりますので、ぜひ嬉野市の観光パンフレットもお願いをして、そこに置いていただくようにしていただきたいというふうに思いますけれども、どうですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

現在、パンフレットは置いていただいています。

以上です。（「この前なかったよ」と呼ぶ者あり）先日送付いたしましたので、置いていただいています。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

はい、わかりました。

じゃ、次に行きます。J A Fの件です。

今回、J A Fが武雄市、伊万里市、有田町、この2市1町と協定を結んでおります。これがドライブ旅行者誘致ということで、全国の自治体との協定も進めておりますけれども、なぜ嬉野市はこの中に入ることができなかったのか、アプローチがなかったのかどうか、そこら辺のところの経緯というのはどうなんですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

実はうちのほうにもアプローチがございました。ただ、加入するには利用料が必要ですので、そのことでちょっと検討させていただきたいということで現在に至っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

利用料というのはどれくらいの金額を指しているんですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

少額でございますけれども、6,000円でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

これが全国に発信してくれるんですね。6,000円が高いか安いかわ、その判断が分かれるところなんですけれども、600万円とか6,000万円とかいうなら話は別なんですけど、6,000円で検討する必要があったんですかね。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

**○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）**

すみません。お答えいたします。

ただ、予算にとりあえず計上していなかったというのと、例えば、予算措置している分には予定の支出がございましたので、6,000円でもちょっと検討したということでございます。

**○議長（田口好秋君）**

山口要議員。

**○17番（山口 要君）**

本当に嬉野市は財政的に厳しいことを考慮されながらそのような結論を出されたと思いますけれども、このコースに入ることによってJ A Fの全国のホームページで紹介してくれるわけなんですね。かなりのPR効果というものは出てくるはずなんですよ。

加えて武雄市、伊万里市、有田町があつて嬉野市がないのはおかしいんじゃないですか。ぜひ、そこら辺については早急にですね、私予算計上されても何も文句言いません。質疑でも質問いたしません。ですから、ぜひ6,000円程度の予算でしたら早急にJ A Fの中に加盟協定をしていただきたいというふうに思いますけれども、市長いかがですか。

**○議長（田口好秋君）**

市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

お答え申し上げます。

同時にはできませんでしたが、現在、加入するように交渉しているということでございますので、締結するように努力をしていきたいと思っております。

以上でございます。

**○議長（田口好秋君）**

山口要議員。

**○17番（山口 要君）**

ぜひこういうものについては、結局、全国にまたがるということをお考えになって、観光というのはやはりPRが必要ですので、今後については御検討していただきたいというふうに思います。

次に行きます。

次に、早稲田大学の観光ルートの提案であります。

これは市長、ごらんになりましたですか、観光ルートの提案書については。

**○議長（田口好秋君）**

市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

お答え申し上げます。

全て読ませていただきました。報告書をですね。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それについて感想はいかがですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

それぞれの県内施設への評価と感想もありましたので、非常に若い人の新鮮な見方、そしてまた、私どもとしては主に公的な交通機関を中心に考えがちですけれども、レンタカー等を使って回られるという新しい若い人の考え方について十分理解するところがありました。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

本当にこれを見ますと、ヒントになることがいっぱいあるわけなんですね。やはり都会の若者の考え方というのはこうなんだというふうなところがありました。

その中で湯遊チケットについては、湯遊チケットが嬉野温泉観光客で認知度がどれくらいあるのかわからないが、チケット加盟店でチケットの販売をしたり、チケット周知ののぼりを立てたりする施策というものが必要ではないかというふうな提案もされております。

そしてまた、志田焼の里博物館においては、正直に言えば、若者はそんなに行こうという意欲が湧かない施設であると。しかし、素の焼き物の窯の雰囲気を感じるには最適な場所と思えるので、焼き物をテーマにして旅をするのであれば、観光ルートに組み込むことでめり張りのきく施設であるように思われるというふうなことも書いてありました。

塩田津については重要伝建というふれ込みであるが、どこに着眼すべきかという点がわかりにくいと。この場所こそが塩田津を象徴しているといった場所が見つからないのであると。すぐれたまち並みを有しているというにもかかわらず、ここで写真を撮れば美しい、おもしろいといったものが見えにくいというふうなことが書いてありました。

湯豆腐については、今後も旅行の重要なコンテンツ、中身ということなので、湯豆腐の店の選択肢が欲しいというふうな、本当にいろんな意見が書いてありました。

ぜひ、これは本当に今後の参考にする検討材料として必要であろうというふうに思っておりますので、これについてはまだ行政だけしかお知りになっておられないと思いますけれども、各観光協会等にもこれをもう一度コピーして配付しておいていただきたい、そして読ん

でいただきたい、そのことについての検討を加えていただきたいというふうに思います。

次に行きます。

ふるさと旅行券——そしてもう1つ、これがレポートを提出されたわけですがけれども、このことについて佐賀県と本市の連携というものは今後どう図っていかれるお考えですかね。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

佐賀県のほうでも、今回のいわゆるレポートについては非常に重きをなして受けとめていくというような談話が出ておりましたので、私どもとしても、一応嬉野市は特に若い人の中では行ってみたいという総合点はいただいているようでございますので、これからの展開に期待しています。そういうことで、県と連携しながらしっかりやっていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひ連携をとりながら、いい方向に向かうように御努力をしていただきたいと思えます。

次に、ふるさと旅行券で、これにつきましては、私は本市の場合、プレミアム商品券のみの発行というふうに思っておりました。ですから、そこら辺でまさかふるさと旅行券が発行されるとは思いもしませんでしたので、ここでこのような質問通告を出したわけですがけれども、おととい、3日前の新聞で見ましたときに、県によると宿泊クーポン事業は唐津市、伊万里市、武雄市、嬉野市、藤津郡太良町も実施をするというふうに記してありましたので、びっくりしたところであります。

ここら辺の経緯について、おわかりであればお示しをいただきたいと思えます。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

まず、経緯ですがけれども、最初、この地域消費喚起・生活支援型の交付金事業につきましては、プレミアムつき商品券、これが市内消費型で、あとふるさと旅行券というのが市外の消費型ということでございまして、当初うちで検討したのが市内消費型ということで、宿泊者限定のスーパープレミアム商品券を旅館等で販売してもらって県の旅行券の取り込みを図りたいという計画でしたけれども、それが旅館等での販売事務の煩雑さとか、あと県の旅行

券に関して国との調整をされていて、県の旅行券の発行内容が流動的だったということで、そういうのを踏まえて商工会、観光協会と協議を重ねた結果、旅行予約サイトを利用した宿泊割り引きのクーポン券を発行しようということで検討した結果、そういう方向性で今現在進んでおるところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

そこら辺ですよ。当初の予算のときには、一切このことについて私どもは知り得ていないわけなんですね。完全にプレミアム商品券ということだけの説明であったというふうに思っておりました。

そこら辺をもう一度——ああ、これはもう時間がないですね。いいです。そしたら発行されるんでしたら、もうそれでいいです。ぜひそういう形でしていただきたいというふうに思います。

そういう中で、発行方法として今後どのような形を考えておられるのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

先ほども申しましたように、宿泊旅行予約サイトの事業者に委託をして券を発行したいというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

これは大手コンビニ等でも発行されておられますけれども、そこら辺のことについてはお考えになっていないのかということが1点。

そして、これが1人当たりの購入枚数の制限というものについてどの程度お考えになっておられるのか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

コンビニ等での販売は現在のところ考えておりません。（「おりません」と呼ぶ者あり）

はい。ですから、予約サイトだけの委託ということになっております。

発行枚数の上限等は、現在のところないということで認識しております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

1人当たりの購入枚数の制限はないんですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

私が今認識しているところでは、検討中なんですけれども、そのような枚数の制限というのは聞いておりません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

聞いておりませんというのは、どちらから聞いておりませんですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

現在、うちと商工会、観光協会と検討を進めておりますので、その中ではそういう限度を設けるといような話がないということでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

これは限度を設けていないところもありますし、限度を設けたところもあるわけなんです。やはりこれについては、一人で大量に買われる可能性も多分にあるわけなので、やはり私は制限枚数というものをある程度加えたほうがいいんじゃないかなという気がいたしますけれども、市長いかがですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

この件につきましては、なかなか企画が固まっていないということで、私としてもまだ深く報告を受けておりませんのでわかりませんが、全国的なネットでの販売という新しい方法ですので、慎重に検討していければと思っております。ちょっと私もまだいろいろ判断はしていません。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

これは大量に買ったのかどうかわかりませんが、鳥取県がコンビニでした場合に1万4,000枚が4分で完売しているんですね。恐らく何人かで大量に買われた方も結構いらっしゃると思うんですよ。そうした場合、行き渡るというのが少なくなるわけですので、通常のプレミアム商品券と同じようにある程度のしほりを持って私はしていただきたいというふうに思います。ぜひそういう方向でいいですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（宮崎康郎君）

お答えいたします。

現在、クーポンの発行時期とか、発行枚数とか、あと旅行サイト以外のPR方法というのを検討しておりますので、その中で早急に検討させていただきたいと思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それでは、あと特区の分と観光戦略については、今後について少し検討をしておいていただきたいというふうに要望だけをしておきます。

仙北市については、ここは注視をしていく必要があるだろうというふうに思っておりますので、いろんな資料を取り寄せながら検討を加えていただきたいと思います。

最後になりますけれども、総合教育会議の分です。

この構成メンバー等は資料をいただきまして、理解をいたしました。その中で、第1回目、5月28日に開催をされ、第2回については素案ができ次第開催というふうになっておりますけれども、もう素案というものは今のところ大体でき上がっているんですかね。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（辻 明弘君）

お答えいたします。

ただいま検討を行っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

大体の素案のめどとして、いつごろを予定されておられますか。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（辻 明弘君）

お答えいたします。

早ければ今月の委員会のほうに素案というか、概要をお示しできればと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

最終的に策定のめどというものは大体いつごろに予定をされておられますか。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（辻 明弘君）

お答えいたします。

一応今年度中には早いうちに策定と思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今年度中というのは12月までであるわけなので、それじゃ遅過ぎるわけですね。ですから、大体の予定として何月ごろというのをお考えになっておられますか。

○議長（田口好秋君）

総務企画部長。

○総務企画部長（池田英信君）

お答えをいたします。

前回のときに大まかな案というものについては提示をしております。もう少し肉づけした

部分について次回のこの会議で提示をして、委員さんから御意見をいただいて、その後、成案としてまとめたいというふうに思っております。ですから、8月、9月ぐらいまでにはできるというふうに考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

大体それくらいのところにはもう仕上げていただきたいというふうに思います。

最初、素案が——私資料をここに来ていなかったんですね。それだけはね。それはもらえなかったんです。後でおいたきたいと思うんですけども、その中身の問題で、とりあえず今回の大綱については教育基本計画を尊重しながら、そして、そこに教育活動を支える環境の整備という項目を追加して行うというふうなことになっておりますけれども、そういうことですかね。

○議長（田口好秋君）

総務企画部長。

○総務企画部長（池田英信君）

はい、そのとおりでございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ここで主となるあれは教育部局なのか、それとも市長部局なのか、そこら辺のバランスというものはどのようにお考えになっておられるんですか。

○議長（田口好秋君）

総務企画部長。

○総務企画部長（池田英信君）

この会議につきましては、組織の規則の中にも書いておりますけれども、総務企画部で担当するというふうに事務分掌の中で書いております。この要綱の中でも基本的には総務課が行うというような決め方をしております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、そのようなことの中で、結局、メンバーの中には教育委員以外は市長だけという形でいいんですかね。あとそれ以外にはもう入らないんですかね。全くそれだけで……（発言

する者あり)

それともう1つ、教育長にお尋ねしますけれども、教育基本計画で市長と教育長、教育委員会との連携というものがあつたわけなんですけれども、そこら辺のところについて簡単にいいですから、お考えといいますか、どのような連携になっていくのかということだけをお答えいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

お答えを申し上げたいと思いますが、特に連携ということでございますので、教育部局のほうでは子どもたちの教育全般について取り組みをしますけれども、特に環境整備ですね、そういう教育環境の整備等についてはやはり首長部局のほうでお願いをしていく必要がありますので、設置権者ですからそういった点では、そこら辺についての連携をつくった大綱になるかと思えます。最終的にはですね。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

わかりました。

非常に失礼な言い方ながら、この会議録を見たときに何となく教育委員さんの発言に市長部局に対するよいしょみたいな感じの発言といいますか、非常に失礼な言い方ながら、そういうふうになんかちょっと見受けられたんですよ。

そこら辺のところちょっと気になる部分がありましたので、やはり市長部局に対して言うときは言うというきちとした形のスタンスをとっていただきたいというふうに思いますけれども、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

せっかくの機会でございますので、教育委員としても前向きに子どもたちのことを考えてお願いをしていくというスタンスは皆持っていると思います。1回目でございますので、議事録から拝見をしていただく中ではまだそこまではいっていないというふうに思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、これについては、今後、結局教育委員会の開催時に合わせて行われていくということ  
とでいいわけですかね。

○議長（田口好秋君）

総務企画部長。

○総務企画部長（池田英信君）

お答えをいたします。

そのようなことで、月に1回程度あるときに提出していきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひ先ほども申しましたように、教育部局においてもきちんとしたスタンスを持ちながら、  
市長部局、相対峙とは言いませんけれども、やはり言うべきところは言うというふうなお考  
えでもって今後の会議に臨んでいただきたいということだけを要望しておいて、私の一般質  
問をこれで終わります。

○議長（田口好秋君）

これで山口要議員の一般質問を終わります。

以上で今定例会における一般質問を全て終了いたしました。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。大変お疲れさまでございました。

午後0時21分 散会